



『水鏡』

標 点

創る未来の学校

浅口市教育委員会 教育長

中 野 留 美



「これまでの教育は古里を捨てさせる教育でした」と言う一文にハッとさせられたのは、5年前の地方新聞の特集でした。「親や学校から『勉強して都会の良い大学に行つて大企業に入れ』といわれて島を出て行つた若者は数知れない」というのです。東京一極集中は教育、学校の在り方にも一因があつたのではないかと問われ、教職経験のある私に突きつけられているように感じました。

GIGAスクール2年目、全ての児童生徒が1人1台端末で学ぶことができる環境が準備され、密を避けることが必要とされるコロナ禍の中で、地方にこそ新たなチャンスと可能性が巡つてきたように思いますし、教育の大転換期であるように感じます。

本市では、全ての小中学校が、コミュニティ・スクールの取組により「あさくち未来学」を進めています。地域愛にあふれた地域ボランティアの方たちが学校のパートナーとなり、「私たちは、恩返しではなく、『地域で受けた恩を次の世代に送っていきたい』『恩送り』をしたい。」と熱く語られます。また、中学生は、「認めて

ほめて 励ます」活動で住みやすい地域を創ろうとしています。住民、保護者、教員、子どもたちが地域課題について自分事として考え、ワークショップや熟議を行っています。義務教育9年間を通して「地域を学び、地域に働きかけ、地域に貢献する」活動によって、地域が学びの場となっています。

GIGAスクール構想により、時間と空間の自由を手に入れ、学びの可能性を広げた子どもたちは、地域での体験や経験から知識を知恵に昇華し、深い学びによって納得解を得る、そのような教育が、資源豊かな地方であるからこそ可能となつてきているのではないのでしょうか。

岡山県の高校での「魅力的な地域学」は全国的にも注目されてきています。地域課題の探究は、ウェルビーイングな社会の実現につながっていく、地元に根を張り、誇れる古里を持つことは、未来を生きる自分の自信に繋がるはずですよ。

「これからの教育は古里を誇りに思う教育」となり、学校が自分たちの地域の未来を創っていくことを期待してやみません。